6月公開「山本内閣親任式の図」

昭和天皇記念館の展示ご案内

昭和天皇記念館の開館記念展「昭和天皇とあけぼのすぎ」は、五月二十八日（日）で終了し、六月六日（火）から九月三日（日）の三カ月間は平常展示になります。なお、開館記念展の展示のなかでも好評で、延長のご要望が強い特別御料馬車、終戦の玉音放送、巡幸に関する展示などは、次の平常展示の期間にも展示いたします。

次回の新しい展示のなかには、幅が約三㍍もある大きな絵画が二枚あります。『山本内閣親任式の図』（震災内閣親任式の図）と題される油彩画で、「昭和天皇記念館」のために特別に宮内庁から長期貸与されるものです。

作者は和田英作画伯。この絵画は、昭和天皇のお住まいでありました吹上御所の御車寄を入った大広間の壁面にかけられていました。御車寄は、両陛下と皇族以外は出入りができない場所で、大広間にかけられてからは、公開されていませんので、拝見できた人は少人数です。従って、この絵画を、今回、記念館で鑑賞できることは貴重な機会といえるでしょう。

描かれた経緯、当時の背景を紹介いたします。

昭和天皇は、大正十年（一九二一）九月、ヨーロッパより帰国されてからは、赤坂御苑での観菊会や陸軍特別大演習などで、ご病気の大正天皇のご名代を務められていましたが、十一月二十五日、摂政にご就任になりました。かつて皇太子が摂政を務めたのは、聖徳太子と中大兄皇子（天智天皇）及びの例があります。

お住まいもこれまでの東宮御所（旧高輪御殿）から、霞ヶ関離宮（当時の東京市麹町区）の東宮仮御所に移されました。

大正十二年（一九二三）八月二十四日、加藤友三郎首相の病死により内閣は総辞職となりました。

昭和天皇はご滞在の葉山御用邸から二十八日にご帰京、霞ヶ関離宮が改装中であったため赤坂離宮に入られました。そして、海軍大将山本権兵衛伯爵に組閣命令が出されました。

屏風をたてて、夜の七時半、燭台のローソクの灯りで親任式は行われました。街は炎で夜空が真っ赤であったと伝えられています。

関東大震災の直後
陛下の復興への強いご決意

が、九月一日午前十一時五十八分四十四秒、マグニチュード七・九の大地震が関東地方を襲いました。

昭和天皇は、この出来事を永く記録することを望まれました。

昭和十一年（一九三六）八月十一日の東京朝日新聞には、昭和二年（一九二七）八月四日に和田英作画伯に揮毫をご下命になりましたが、和田画伯は、東京美術学校の校長に任ぜられたため次第に完成が遅れて、昭和十一年九月一日の震災記念日に献納出来る運びになったとあります。

また、絵画＝㊨＝にはる文書の複製です。

「大正十二年九月二日夜七時半、現在大宮御所のお離れである赤坂離宮の広芝の御茶屋で畏くも摂政宮殿下にあらせられた聖上陛下から震災内閣首相の優諚を拝し、前田利定子（子爵）が侍立する」と。

もう一枚＝㊧＝には、「次の間には震災内閣々僚たる井上準之助、後藤新平、財部彪、田中義一、犬養毅、田健治郎、山之内一次諸閣僚、牧野伸顕、珍田捨巳、入江為守諸重臣及び樺山内閣書記官長、下條内閣書記官が控へてゐる」とあります。さらに「親任式中も頻々と余震があり、畏くも陛下には籐の丸テーブル、籐の椅子、燭台の灯りの下で式を行はせ給うた……」と続いています。

親任式の翌日、九月三日、昭和天皇は再び山本首相を呼び出されて、罹災者を救済するため、内帑金一千万円を下賜されました。絵画とともに展示を予定しています「震災につき摂政殿下御沙汰書」および「御下賜金文書」は、このことに関する文書の複製です。

九月十五日、昭和天皇は、ときどき雨が降るなか、愛馬「山吹」にお乗りになって被災地をご視察になりました。

『侍従武官長奈良武次日記・回顧録』（柏書房）には、その様子が記されています。

「…午前六時御出門、御乗馬にて市ケ谷見附、九段、俎橋、三崎町、本郷、切通し、上野方面御視察。二十六日、昭和天皇と香淳皇后はご結婚になりました。昭和天皇二十二歳、香淳皇后二十歳のときです。責任をとって山本内閣は総辞職しました。

翌年、大正十三年一月二十七日、昭和天皇は帝国議会開院式へ向かわれる途中に狙撃されました。虎ノ門事件です。責任をとって山本内閣は総辞職しました。

十二月二十七日、昭和天皇は帝国議会開院式へ向かわれる途中に狙撃されました。虎ノ門事件です。責任をとって山本内閣は総辞職しました。

翌年、大正十三年一月二十六日、昭和天皇と香淳皇后はご結婚になりました。昭和天皇二十二歳、香淳皇后二十歳のときです。

和田英作画伯が緊迫感を描写

和田英作氏略歴　明治七年（一八七四）鹿児島生まれ。帝国美術院会員・帝室技芸員。文化勲章受章。昭和三十四年（一九五九）八十四歳で没

●昭和天皇記念館メモ

☆入館料　一般五百円（三百五十円）、大学生・高校生三百円（二百十円）、中学生・小学生百円（七十円）、幼児は無料。（）内は20人以上の団体料金。心身障害者とその介護者1人は無料（障害者手帳等を提示いただきます）

☆開館時間　9時半～17時（11月から2月末は9時半～16時半）、入館は閉館の30分前まで

☆休館日　月曜日（月曜日が休日の場合は直後の平日）。ただし、5月30日（火）から6月4日（日）まで展示替えのため臨時休館。12月31日・元日、2月第4月曜日とその翌日も休み

☆アクセス　東京の新宿駅よりJR中央線で立川駅まで特快で約30分、北口からあけぼの口を通って徒歩13分。多摩都市モノレールの立川北駅からは徒歩11分。タクシーは「記念館口」下車、すぐ。車の場合は中央自動車道の国立府中ICか、八王子ICで下り、甲州街道（国道20号線）、立川通り、緑川通りを走って右折すれば国営昭和記念公園。駐車場あり（左の公園メモ参照）

☆☎　042・540・0429

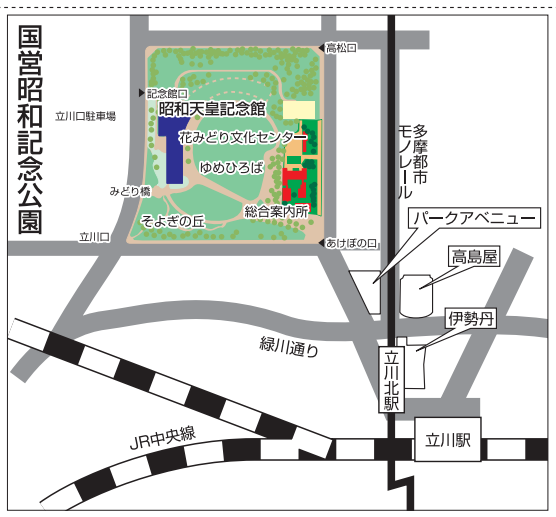
◆国営昭和記念公園メモ

☆入園料　大人（15歳以上）四百円、小中学生（6～14歳）八十円

☆開園時間　昭和天皇記念館と同じ

☆休園日　12月31日・元日　2月第4月曜日とその翌日

☆アクセス　入口は立川口、西立川口、昭島口、玉川上水口、砂川口の5カ所。立川口には「みどりの文化ゾーン」のみどり橋を渡れば徒歩約2分

☆駐車料金　1回、普通車八百二十円。駐車場は立川口、西立川口、砂川口の3カ所

☆☎　042・528・1751